

下 関 市 レ ク リ エ ー シ ョ ン ボ ッ チ ャ チ ャ ン ピ オ ン 大 会

オープンカテゴリーの部
(無 差 別 級)
初 心 者 ・ 初 級 者 の 部

競 技 規 則

1. ゲームの方式

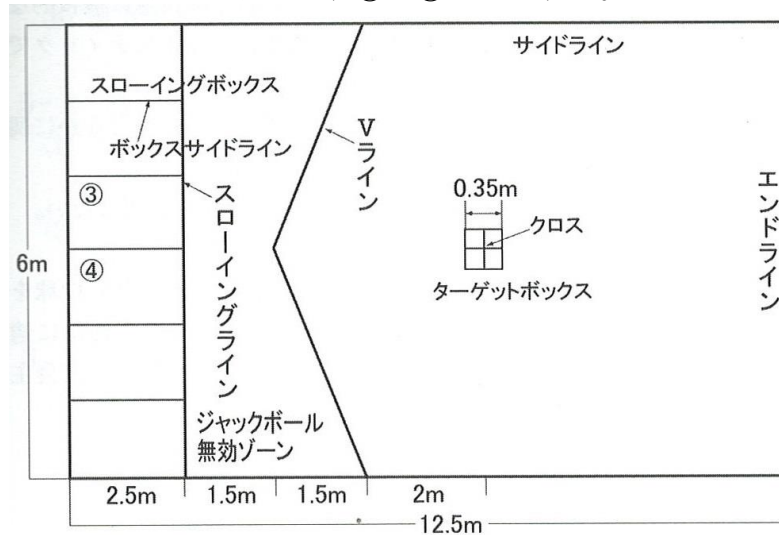
1人ずつの個人戦で、予選リーグは1試合2エンド行う。

ジャックボールを含めた投球時間の合計を1エンドあたり、上級の部は4分、初心者・初級の部は5分とする。

決勝トーナメントは、4エンドまで行う

各エンドの得点を記録し、合計得点で勝敗を決める。

1エンドとは、それぞれの選手が全てのボールを投げ終わったときとするが、投球時間を超えてしまった選手は、そのエンドではそれ以降、投球することはできない。
競技で使用するスローイングボックスは、③と④のみとする。



- ① ジャンケンで先攻（赤ボール）・後攻（青ボール）を決める。
- ② 1エンドは、赤ボールが先攻となる。以後、交互に投げる。

2. ゲームの展開

- ① 1エンドは赤が、白のジャックボールを投げる。
ジャックボールが有効だった場合、続けて赤ボールを投げる。
ジャックボールが無効ゾーンに止まったり、コート外に出てしまったときは、相手ボールとなり、青がジャックボールを投げる。
- ② 次に投げるのはジャックボールに近いボールが赤だったら青が投げる。
以下、同様にジャックボールに一番近いボールでない選手が投げる。
- ③ スローイングボックスの中であれば、どこから投げてもかまわない。
- ④ 線を超えて（踏んで）投げたり、審判の指示板が出される前にボールを投げた場合はファールとなる。ファール1度目は注意（忠告）をすることとし、ファ

ールとカウントしない。

初心者の部は注意（忠告）はするが、ファールはカウントしない。

- ⑤ わざと時間を遅らせる、相手の投球中の発声等の行為はマナー上控えること。
- ⑥ 投げたボールが、コート外に出る、ぶつけられてカラーボールがコート外に出た場合にはアウトとなり出たボールは直ちにコートの外に出される。
ジャックボールが無効ゾーンやコート外に出された場合はクロスに置く。
- ⑦ 両者が全てのボールを投げ終わったら、エンド終了となり得点をつける。
得点は、ジャックボールの一番近くに赤（青）ボールがある場合は、ジャックボールとジャックボールから一番近くにある青（赤）までの距離を半径にして、ジャックボールを中心に円を描いて、その中に何個赤（青）ボールがあるかを判定する。
赤ボールが3個あれば、3対0で赤の勝ち。ジャックボールから赤と青が1個ずつ等距離にあれば、1対1の引き分け。赤2個と青1個が等距離にあれば、2対1で赤の勝ちとなる。
- ⑧ 審判がジャックボールを取り上げた時点でラウンドが終了する。
選手は異議がある場合、得点を発表してから審判がジャックボールを取り上げるまでの間に、手をあげ審判に申し出る。
選手は、ゲーム終了までいかなる場合であっても審判の了解を得てからでないとしてスローイングゾーンからでてはいけない。
したがって、ゲーム中、進行等に異議がある場合は手をあげ審判に申し出ることを原則とする。
- ⑨ 1エンドが終わったら、2エンドは青が先攻となり、青の1番がジャックボールを投げる。以下、同じようにゲームをする。
- ⑩ 2エンド行って、合計得点の多い選手の勝ちとなる。
ゲームが終了したときに同点の場合は、タイブレークを行う。タイブレークの場合には、ジャックボールをコートの中央のクロスに置き、ジャンケンをして、先攻、後攻を決定する（この際、ボールの色は変更しない）。投球は一人3投とし、ジャックボールに一番近い者の勝ちとする。タイブレークの得点は加算する。

※補足

線を越えて（踏んで）投げそうな場合は審判が声をかけ注意をうながし、できるかぎりファールにならないようにする。

明らかな遅延行為が行われた場合、審判より注意をする。

初心者・初級の部はアシスタント（介助者・保護者等）のボックス内への立ち入りを認め、助言やサポートも認める。（選手1人に対して原則1人）

オープンカテゴリーの部のアシスタント（介助者・保護者等）は、「ボールを渡す」、「姿勢を整える」などの介助の場合のみボックス内の立ち入りを認め、その他の助言やサポートは認めない。

上記競技規則に加え、大会当日の申し合わせ事項により競技を行うものとする。